

2019 年度定時社員総会資料

開催年月日 2019 年 5 月 29 日（水）

開催場所 建築会館ホール

東京都港区芝 5-26-20



一般社団法人日本技術者教育認定機構

一般社団法人日本技術者教育認定機構
2019年度定時社員総会

資料目次

1. 2018年度事業報告（案）並びに決算報告（案）	
(1) 2018年度事業報告	1
(2) 2018年度認定審査サマリーレポート	11
(3) 2018年度決算報告	19
(4) 監査報告書	23
(5) 社員名簿	24
2. 役員等選任（案）	
(1) 役員等選任候補者	25
(2) 新任役員候補者の主たる経歴	26
付表・資料	
1. 2018年度 JABEE 認定審査 新規認定プログラム一覧	39
2. 2018年度 JABEE 認定審査 暫定認定プログラム一覧	40
3. 2018年度 JABEE 認証評価 適格認定専攻	41
4. 2019年度事業計画及び収支予算	
(1) 事業計画	43
(2) 収支予算	45
5. 2018年度委員会経過報告	47
6. 2018年度フェロー認定者	65
7. 賛助会員リスト	66

2018 年度事業報告（案）

2018 年度事業報告

2018 年度認定審査サマリーレポート

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

一般社団法人日本技術者教育認定機構
2018 年度事業報告
(2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで)

1. 事業報告

1.1 定時社員総会・理事会

1.1.1 定時社員総会

2018 年度定時社員総会を 2018 年 5 月 29 日に開催した。出席社員数は正会員総数 67 団体中 63 団体であった。2017 年度事業報告に続き、2017 年度の決算書類が承認され、全会一致で原案通り承認可決された。定時社員総会終了後には前年度と同様、2017 年度新規認定プログラムのうち、希望のあった 4 プログラムに対する認定証授与式を行った。

1.1.2 理事会

通常理事会は 2018 年 4 月 24 日、5 月 29 日、11 月 13 日、2019 年 1 月 30 日、3 月 8 日の 5 回開催した。

1.2 事業活動

1.2.1 委員会等活動

(1) 各委員会の開催

各業務別部門に設置した認定事業委員会、広報・普及委員会、国際委員会、専門職大学院認証評価委員会、その他専門委員会、部会及び WG を開催した。また 2011 年度以降財務、組織運営及び事業の企画・検討を担う財務・企画委員会の活動が滞っていたため、財務問題を中心に現状分析と対策案を検討するためのタスクフォースとして進めた。2018 年度の各委員会活動については別資料にて報告する。

(2) 運営会議、拡大運営会議の開催

理事会からの付託事項を審議、調整し業務遂行を所掌する運営会議を 12 月 19 日に、また各認定分野との情報共有、連携強化のために 13 学協会の出席にて拡大運営会議を 4 月 17 日開催し、各学協会との情報共有に努めた。

1.2.2. 認定事業

(1) 認定会議

2018 年度認定会議を 2019 年 3 月 1 日に開催し、議長、委員 8 名、オブザーバー 5 名、及び審査・調整結果報告者として認定・審査調整委員会委員長が出席した。認定会議では、2 月 9、10 日及び 23 日に開催した認定・審査調整委員会による個別審議結果に関して、専門分野から選任した委員 5 名及び議長推薦の認定・審査に通曉した委員 3 名により、全分野を通しての審議結果の妥当性、正当性を判定した。認定会議では、認定・審査調整委員会委員長による 2018 年度の審査及び調整・審議のプロセスとその過程での議論等の報告

の後、プログラムごとの審査結果の報告、質疑応答及び審議を行った結果、全プログラムについて認定・審査調整委員会の審査結果を異議なく承認した。その後、当年度の認定審査結果を踏まえて、継続的改善が不十分なプログラムへの対応、文部科学省や機関別認証評価との関係等について意見交換を行った。

(2) 認定審査

2018年度は、学士課程の3プログラムを新規に認定し、認定継続審査及び中間審査を含めて合計59プログラムを認定した。認定種別の内訳は、エンジニアリング系学士課程54、エンジニアリング系修士課程1、情報専門系学士課程4プログラムであった。3月1日の認定会議で認定の可否及び認定期間を審議、決定し、3月8日の通常理事会で承認した。昨年度と同様に、認定可否の内定通知を認定会議の結果を受けて直ちに各受審プログラムに送付し、新規認定プログラムについては上記理事会の直後にJABEEのウェブサイトで公表した。

上記の「本審査」に加えて、予備審査の実施により4プログラムの暫定認定を行い、公表した。これにより受審までの準備段階にある上記プログラムに対して教育改善の指針を与えるとともに、これらのプログラムが認定に向けて教育改善に取り組んでいることを社会に公表した。

2018年度は2012年度改定の認定基準を適用する最後の審査年度となった。全体としては高評価のプログラムが多く、JABEEの基準や考え方をよく理解して改善に取り組んできたことが、この結果に表れたものと思われる。一方、一部には前回の審査で高評価を得たものの、改善が進んでいないもしくは悪化しているとの判断により、今回の審査では評価が下がったプログラムもあった。審査チームからの報告では、その原因の一つとして、プログラム責任者の世代交代により、JABEEの認定基準やその考え方が十分に理解されていないことが指摘された。2019年度から適用される新基準に関してより深い理解が得られるよう、JABEEとしてもその支援のための努力を行っていく予定である。

2018年度の審査のために、審査団／審査チームが使用するJABEEウェブサイト内の「メンバーページ」の機能強化を行ったが、システムトラブルが発生し、審査関係者及び受審教育機関にご迷惑をおかけした。今後は同様の問題が発生しないようチェック体制を強化する。

(3) 認定プログラム数の推移

認定中のプログラムの数は2009年度までは順調に増加してきたが、2010年度以降は認定継続を取りやめるプログラム(プログラムの統合による減少も含む)の数が新規に認定されるプログラムの数を上回るようになり、認定プログラム数は減少してきている。2009年度のピーク時に418件であった認定プログラム数は、2018年度の時点では340件に減少している。この認定プログラム数の減少は現在の最大の問題であり、認定プログラム数が

再び増加に転じるよう広報活動の強化や審査制度の改善などの視点から対策に取り組んでいる。

一方、中央教育審議会がまとめた「認証評価制度の充実に向けて(審議まとめ)(平成 28 年 3 月 18 日)」や「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)について(平成 30 年 11 月 26 日)」などにあるように、JABEE が実施しているプログラム認定、すなわちプログラム毎の教育の質保証システムの適切性を検証する「分野別評価」の必要性が注目されてきており、今後受審校の増加につながることへの期待もある。この動きと関連して、認証評価機関との連携(JABEE 審査結果の認証評価への利用)が具体化しつつある。

(4) 審査員研修

2018 年度の審査員及びオブザーバーを対象とした審査員研修会を、1 泊研修 2 回、日帰り研修 1 回の計 3 回開催した。2018 年度の審査で対応いただいた審査員 171 名、オブザーバー 50 名の合計 221 名の 72%にあたる 160 名(審査員 141 名、オブザーバー 19 名)の参加があった。

2017 年度から開始した審査員やオブザーバー向けのウェブ講習(e ラーニング)を使用して、個人による審査員研修会前の事前学習を実施した。これにともない、審査員研修会の内容は、受講者がこのウェブ講習を受講したことを前提とした、より実践的な内容のものとした。

(5) 認定基準及び認定・審査関連文書の改定について

認定基準は、2012 年度以降大きな改定はなかったが、2019 年度より新しい認定基準により審査を行うこととなった。

認定基準は、2017 年度に公開した共通基準に加えて、2018 年度は認定種別及び認定分野ごとの必須事項や勘案事項を定める個別基準、認定基準の解説、さらに関連する主要文書を公開した。また、11 月から 12 月にかけて、全国の主要 5 都市において主にプログラム関係者を対象とした「基準改定説明会」を開催し、改定後の基準の解説や審査関連規定の改定内容の説明、及び質疑応答を行った。

1.2.3 国際活動

(1) IEA 総会、ワシントン協定総会

IEA(International Engineering Alliance)総会は 2018 年 6 月 25～29 日にロンドンで開催され、JABEE からは副会長以下 3 名が出席した。

2015 年から継続審議されていたイギリス ECUK の 3 年 Honor 学士プログラムをワシントン協定下で実質的同等性を認めるか否かの議論は、イギリスが今後ワシントン協定対応認定プログラムリストに 3 年 Honor 学士プログラム掲載しないことに同意したため一応の決着を見たが、議論の焦点が学歴要件から技術士資格要件に移り、今後は International Professional Engineers Agreement で継続審議される事となった。

ワシントン協定総会では、2014年に暫定加盟をしていたペルーの正式加盟が承認され、正式加盟国は20カ国となった。チリの暫定加盟が承認され、暫定加盟団体は5カ国となった。またJABEEの更なる6年間の継続加盟も承認された。

(2) ソウル協定中間会議

ソウル協定は情報系教育認定団体の国際的枠組みであり、ワシントン協定の開催に合わせて総会と中間会議が隔年で開催されている。2018年は、中間会議が6月23～24日、ケンブリッジで開催され、JABEEからはソウル協定プログラム部会主査が出席した。修士課程の教育プログラムの同等性をソウル協定下で認める方向が承認された。

(3) 建築設計・計画系教育プログラムにおけるキャンベラ協定への加盟準備

キャンベラ協定は、UNESCO-UIA教育憲章を満たす建築設計・計画系教育プログラム(5年間以上の教育課程)の質保証に関する国際協定である。JABEEは2014年9月にキャンベラ協定への暫定加盟を果たし、2015年10月、キャンベラ協定審査チームの加盟審査を受けた。2016年、2017年、2018年には正式加盟に至らなかったが、2019年8月の総会で正式加盟が承認されることを期待している。

(4) インドネシア IABEE 設立支援

インドネシア政府がインドネシアに技術者教育認定機構(IABEE)を設立するため、日本政府に支援を要請したことを受けて、JICAからJABEEに対し協力要請があり、5年間の業務委託を受けている。第1年次(2014年11月から2015年9月)、第2年次(2015年10月から2017年3月)の業務を完了し、最終フェーズである第3年次(2017年4月～2019年10月)を実施中である。すでに32件の通常認定と27件の暫定認定を行った。2019年に香港で開催されるワシントン協定総会で暫定加盟を目指している。

暫定加盟を果たした後、2021年の正式加盟に向けた支援も行うことになり、JICA事業を2021年まで延長することが決定した。

1.2.4 広報活動

(1) JABEE の広報活動

2018年3月に全面リニューアルしたJABEEウェブサイトにて技術者として活動する認定プログラム修了生、認定教育機関の教員や企業の審査員経験者などへのインタビューを掲載し、また各種関連情報を掲載した。

パンフレットについては企業関係者などにJABEEのことを知ってもらえる内容とし、ウェブサイトと連携したA4版4ページ見開きタイプのを2018年9月に作成した。

また企業関係者を対象としたJABEEメールマガジンの配信を2018年5月から開始した。JABEE認定についての連載記事や各種イベント記事で構成し、2018年度はJABEE関係者と企業関係者を含めた約450名に5回のメールマガジンを配信した。

(2) 企業ネットワークの立上げ

JABEE 修了生の知識や能力を企業関係者に PR し、JABEE 認定業務に対する企業審査員としての参加の促進と企業との連携強化をねらい、前年度に続き 2019 年 3 月に開催された 5 つの大学での就職セミナーにて JABEE のパンフレットを配布した。就職セミナーの会場で採用担当者にも JABEE についての説明を行ったが、JABEE の認知度は低いため教育機関とも連携した活動を継続していく。一方 JABEE 賛助会員の企業も訪問し、JABEE の状況や課題についてご説明し JABEE 活動への協力をお願いした。

(3) 講演活動

広報活動の一環として要請のあった団体からの講演依頼に対応した。

- ・ 高等教育質保全学会 第 8 回大会 8 月 26 日 於 中央大学後楽園キャンパス
『技術者教育認定の海外の動向と JABEE 認定』 講演者:青島専務理事
- ・ 第 10 回科学技術人材育成シンポジウム・平成 30 年度第 2 回 CPD 協議会シンポジウム 2 月 2 日 於 日本大学理工学部駿河台校舎
『技術者認定ならびに技術者資格認定の国際動向』 講演者:本城副会長

(4) 技術者教育改善のためのワークショップ開催

公益社団法人日本工学教育協会と共同で実施している「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を 3 回開催した。

第 11 回 (6 月 30 日開催) “コミュニケーション実践道場(その 1)” として対人関係スキルに関するプロセス、メカニズムについて解説を行い、実践力を体得する手法をグループワークにて学んだ。参加者 21 名。

第 12 回 (9 月 15 日開催) “コミュニケーション実践道場(その 2)” としてアクティブラーニングを通じて学生との有効なコミュニケーションの取り方について解説を行った。これに基づきグループワークでは講師も加わり実践指導が行われた。参加者 17 名。

第 13 回 (12 月 15 日開催) “学習・教育到達目標の達成度を高めるモジュール型教育” として JABEE が特に重視している修了生のアウトカムズ(学習成果)に関し、これを達成するための「モジュール(科目群)型教育」について 5 人の講師から解説と大学での事例紹介などがあった。その後、学習・教育到達目標に対応したモジュール型教育を取り入れたカリキュラム設計のあり方と各科目の教育手法に関するグループワークを行った。33 名の参加者があった。

(5) 認定プログラム修了生の技術士資格取得状況

JABEE 認定プログラム修了者の技術士第二次試験合格者数は、2018 年度は全合格者の 9.4%にあたる 221 名だった。合格率も第二次試験全合格者全体の合格率とほぼ並ぶレベルとなっている。また JABEE 認定プログラム修了者の合格者平均年齢は 32.0 歳で、全体平

均より 11.2 歳若く、最も若い 26 歳の合格者 8 名の内 7 名は JABEE 認定プログラム修了者である。

これらのデータを JABEE ウェブサイト内の「技術士への道」のページに掲載した。

1.2.5 専門職大学院の認証評価

2018 年度は 1 教育機関の 1 専攻の認証評価を行った。6 月に提出された自己評価書に基づいて書面調査を実施した後、11 月に実地調査を行い、12 月に認証評価委員会において認証評価報告書(案)を作成した。認証評価報告書(案)は 2019 年 1 月 30 日の通常理事会で審議、承認した。2019 年 3 月 25 日、認証評価報告書を文部科学省に提出し、併せて申請専攻の自己評価書(本文編)ならびに認証評価報告書をウェブサイト公表した。

2. 2018 年度理事会及び社員総会開催報告(開催時期の順)

2.1 第 1 回通常理事会

開催日時 2018 年 4 月 24 日(火) 10:00~12:00

開催場所 建築会館 3 階 301/302 号室

出席理事数 理事会構成員 30 名中 22 名

2.1.1 審議事項

- ・ 2017 年度事業報告(案)並びに決算報告(案)について
- ・ 2018 年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件
- ・ 2018 年度定時社員総会付議事項について
- ・ 個人情報の保護に関する規程について
- ・ ワシントン協定総会対応の件
- ・ JABEE の財務および事業企画の検討取進めについて
- ・ JABEE フェロー制度の導入について

2.1.2 報告事項

- ・ 2018 年度審査スケジュールについて
- ・ 正会員数並びに賛助会員数の推移について
- ・ 2017 年度認定審査サマリーレポート

2.2 定時社員総会

開催日時 2018 年 5 月 29 日(火) 10:00~11:20

開催会場 建築会館ホール

出席社員数(正会員数)正会員数 67 団体のうち出席正会員数 63 団体

2.2.1 審議事項

第 1 号議案 2017 年度事業報告(案)並びに決算報告(案)

2.2.2 報告事項

- ・ 2017 年度認定審査結果
- ・ 2017 年度認証評価結果
- ・ 2018 年度事業計画並びに収支予算
- ・ 2017 年度委員会経過報告

2.2.3 その他

2017 年度新規認定プログラム認定証授与式(出席:4 校 4 プログラム)

2.3 第 2 回通常理事会

開催日時 2018 年 5 月 29 日(火) 11:40~12:30

開催会場 建築会館 3 階 301/302 号室

出席理事数 理事会構成員 30 名中 26 名

2.3.1 審議事項

- ・ 2019 年度基準改定文書(案)について
- ・ 財務・企画委員会委員長の選任

2.3.2 報告事項

- ・ 第 9 回拡大運営会議議事メモ(案)
- ・ 2019 年度から適用する点検項目の判定規則の変更について
- ・ キャンベラ協定について

2.4 第 3 回通常理事会

開催日時 2018 年 11 月 13 日(火) 10:00~12:00

開催会場 建築会館 3 階 301/302 号室

出席理事数 理事会構成員 30 名中 16 名

2.4.1 審議事項

- ・ 学位授与機構との覚書
- ・ 日工教・技術士会との覚書
- ・ インドネシア技術士会との覚書
- ・ JABEE フェロー制度規程(案)
- ・ 2019 年度版審査料・認定維持料について
- ・ 審査員倫理規程について
- ・ JABEE20 周年記念行事について
- ・ 自己評価について

2.4.2 意見交換事項

- ・ 融合分野の認定について

2.4.3 報告事項

- ・ IEA 総会出張報告
- ・ ソウル協定中間会議出張報告

- ・ キャンベラ協定報告
- ・ 専門職大学 1 件のみ設置認可について
- ・ JABEE パンフレット
- ・ 日本看護学教育評価機構・設立報告

2.5 第 4 回通常理事会

開催日時 2019 年 1 月 30 日(水) 10:00~12:00

開催会場 建築会館 3 階 301/302 号室

出席理事数 理事会構成員 30 名中 23 名

2.5.1 審議事項

- ・ 専門職大学院認証評価報告書について
- ・ 認定会議委員の承認
- ・ 2019 年度事業計画(案)ならびに予算(案)について
- ・ 規程の改定(国内旅費規程、外国出張旅費規程、文書管理規程、JABEE ロゴ規程)
- ・ PII/IABEE のワシントン協定暫定加盟推薦について
- ・ 20 周年記念行事について
- ・ フェロー審査委員会委員の承認

2.5.2 報告事項

- ・ 第 18 回運営会議・報告
- ・ ワシントン協定継続加盟審査チーム報告書のウェブサイトへの掲載について
- ・ ソウル協定中間会議出張報告
- ・ 基準改定説明会報告
- ・ 工学教育領域の国際的な評価の動向について
- ・ 香港(HKIE)からの協力依頼について
- ・ バングラディシュ(BAETE/IEB)からのシンポジウムへの招待について
- ・ 国立大学教育研究評価委員会専門委員候補者の推薦について
- ・ キャンベラ協定正式加盟に向けた進捗状況について

2.6 第 5 回通常理事会

開催日時 2019 年 3 月 8 日(金) 10:00~12:00

開催会場 建築会館 3 階 301/302 号室

出席理事数 理事会構成員 30 名中 17 名

2.6.1 審議事項

- ・ 2018 年度認定プログラム(案)承認の件
- ・ 2019 年度事業計画(案)ならびに予算(案)について
- ・ 賛助会員入会の件

2.6.2 報告事項

- ・ 2019年度審査スケジュールについて
- ・ 2017年度～2024年度・収支の推移について
- ・ 正味財産の推移について
- ・ JABEE フェロー推進状況について
- ・ 大学改革支援・学位授与機構との覚書
- ・ 学校教育法等の一部を改正する法律案の概要について
- ・ 教育エコシステム拠点の形成事業 シンポジウムについて

以上

2018 年度認定審査サマリーレポート

JABEE の認定・審査は、正会員 67 専門学協会の協力を得て、16 の分野別審査委員会及び JABEE 認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム^(注)の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。2018 年度の認定プログラムは、このような過程を経た最終審査報告に基づき、3 月 1 日に開催された認定会議において決定され、3 月 8 日の理事会により承認されました。

1. 2018 年度認定審査結果

(1) 結果概要

2018 年度は、新規審査、認定継続審査及び中間審査により合計 59 プログラムが認定されました。新規に認定されたのは 3 プログラムです。審査の種別による認定プログラム数の割合は、認定継続審査が 68%、新規審査が 5%、中間審査が 27%でした。

認定を 2001 年度に開始後、新規認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き 172 教育機関の 505 プログラムとなりました(図 1)。この内 98 (57%) の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生の累計は約 30 万人に達しています。

2018 年度の審査は、171 名の審査員によって行われました。また、50 名の審査員候補者が、オブザーバーとして審査に参加しました。審査員・オブザーバーのうち産業界の経験者は 95 名 (43%) でした。適正な審査を実施するため、2018 年度審査員に対する研修会が 3 回 (1 泊研修 2 回、日帰り研修 1 回) 開催され、160 名が参加しました。また、審査員候補者の導入研修会 (審査講習会) は、審査チームを派遣する各学協会の主催によって 7 回開催されました。

(2) 予備審査

JABEE では、受審までの準備段階にあるプログラムに対して教育改善の指針を与えると同時に、認定に向けて取り組んでいるプログラムであることを「暫定認定」プログラムとして社会に公表することとし、2013 年度から予備審査制度を実施しています。2018 年度は予備審査の結果、新たに 4 プログラムを暫定認定プログラムとしました。

(3) 審査結果の全般的傾向

2018年度は2012年度改定の認定基準を適用する最後の審査年度となりました。全体としては高評価のプログラムが多く、JABEEの基準や考え方をよく理解して改善に取り組まれたことが、この結果に表れたものと思われます。一方、一部には前回の審査で高評価を得たものの、改善が進んでいないもしくは悪化しているとの判断で、今回の審査では評価が下がったプログラムもありました。審査チームからの報告では、その原因の一つとして、プログラムのJABEEの認定基準や考え方に対する理解が十分ではないことが指摘されています。2019年度から適用される基準に関してより深い理解をお願いするとともに、JABEEとしてもその支援のための努力を行ってまいります。

改組等によりご担当の方々がJABEEへの対応に苦心されていることと思いますが、改善のための変更はJABEEが推奨していることでもありますので、それを機にさらなる改善に向かわれることを期待しています。なお、2019年度以降の新基準の下での審査では、進行中の改善を十分考慮した判断を行うこととしております。

(4) 認定プログラム数の推移

認定中のプログラムの数は2009年度までは順調に増加していましたが、2010年度以降は認定継続を取りやめるプログラム（プログラムの統合による減少も含む）の数が新規に認定されるプログラムの数を上回るようになり、認定プログラム数は減少してきています（図2）。2009年度のピーク時に418件であった認定プログラム数は、2018年度の時点では340件に減少しています。認定プログラム数累計及び現在の認定プログラム数の教育機関種別内訳を表1に、分野別内訳を表2に示します。JABEEではこの認定プログラム数の減少を現在の最大の問題としてとらえ、認定プログラム数が再び増加に転じるよう広報活動の強化や審査制度の改善などの視点から対策に取り組んでいます。

一方、中央教育審議会がまとめた「認証評価制度の充実に向けて（審議まとめ）（平成28年3月18日）」や「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）について（平成30年11月26日）」などにあるように、JABEEが実施しているプログラム認定、すなわちプログラム毎の教育の質保証システムの適切性を検証する「分野別評価」の必要性が注目されてきており、今後受審校の増加につながることが期待されます。また、この動きと関連して、本レポートの2（2）にあるような認証評価機関との連携が具体化しつつあります。

2. 2019年度以降の認定審査について

(1) 基準改定関連文書の公開と説明会の開催

すでに公表しているとおり、2012年度から2018年度までの審査で使用してきた認定基準を改定し、2019年度から新しい認定基準に基づいた審査を開始いたします。2018年度は上記の基準改定にともなう審査関連規定の改定を行い、主要な文書をJABEEのウェブサイトで公開しました。

また、昨年(2018年)の11月から12月にかけて、全国の主要5都市において主にプログラム関係者を対象とした「基準改定説明会」を開催し、改定後の基準の解説や審査関連規定の改定内容の説明、及び質疑応答を行いました。説明会の資料と質疑応答の内容はJABEEのウェブサイト(下記)で公開しています。

<https://jabee.org/archives/2580>

(2) 機関別認証評価機関との連携

2019年度から大学改革支援・学位授与機構が実施する3巡目の機関別認証評価が始まります。その中の領域6の評価において、JABEEの認定を取得している教育機関については、今後JABEEの認定審査の結果が活用されることになり、これにより機関別認証評価の自己評価書の作成が大幅に簡略化できることになりました。この具体化のために大学改革支援・学位授与機構とJABEEで協議し、相互の情報提供のための覚書に署名しました。同様に、今後他の認証評価機関とも協力の方法について検討していきたいと考えており、JABEEの認定が、教育機関における今後の適切な機関別認証評価への対応に役立つこととなります。

3. 国際関係

(1) ワシントン協定

2018年6月にロンドンで開催されたワシントン協定の総会で、JABEEの継続加盟(次回の継続加盟審査までの6年間)が全会一致で承認されました。ワシントン協定の審査チームが2017年11月に日本で実施した実地審査に基づいて提出し、継続加盟承認の根拠となったレポートをJABEEのウェブサイト(下記)で公開しています。

<https://jabee.org/doc/18Review-Report-JABEE.pdf>

(2) インドネシア技術者教育認定団体(IABEE)設立支援

JABEEは、インドネシアに技術者教育認定団体(IABEE)を設立して認定制度を立ち上げるための国際協力機構(JICA)の5年間の支援事業に引き続き協力しています。2017年度からは、事業の最終フェーズである第3年次(2017年4月~2019年10月)に入っており、2018年度はインドネシアにおけるIABEEの認定審査活動のサポートやワシントン協定への暫定加盟準備のサポート等を行いました。

4. 広報・普及活動

(1) ワークショップの開催

JABEE は 2012 年から公益社団法人日本工学教育協会と共同で「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を開催してきました。本年度は以下のテーマで計 3 回実施しました。

- 第 11 回 (6 月 30 日) :
コミュニケーション実践道場 –コミュニケーションの極意–
- 第 12 回 (9 月 15 日) :
コミュニケーション実践道場 –アクティブラーニングの極意–
- 第 13 回 (12 月 15 日) :
学習・教育到達目標の達成度を高めるモジュール型教育

2019 年度も教育改善に有効と思われるテーマを選び、開催してまいりますので、ぜひ参加をお願いします。

(2) 企業関係者への広報活動

産業界への認知度向上のため、産業界とのネットワーク作りをさらに進めることを目的としてメールマガジンの発行を始めました。2019 年度はこれらの内容をさらに充実させて、企業への JABEE の認知度をさらに高めていく予定です。また大学の就職説明会の場を利用した企業関係者への PR 活動や、JABEE 関係者の人脈を使った賛助会員及び認定プログラムの開拓を進めてまいります。

(3) JABEE ウェブサイトの刷新

2017 年度にウェブサイトのリニューアルを行いました。2018 年度はさらにそのブラッシュアップを進め、教育機関関係者、高校生やその保護者、社会一般の方々に、JABEE への理解を深められるコンテンツを盛り込みました。

5. 認定プログラム修了生の技術士資格取得状況

JABEE 認定プログラムの修了者は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。認定プログラム修了者の修習技術者が、2008 年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降全体の合格者に対する認定プログラム修了者の合格者の割合は順調に増加しています。また、初期は認定プログラム修了者が若年者のみであったため低かった合格率も、現在では全体の合格率とほぼ同等にまでなっています（図 3）。2018 年度の第二次試験の結果によると、認定プログラム修了者の合格者は 221 名で 2017 年度から減少しましたが、全体の合格者数も減少

し、合格率も低下していることから、試験の難易度が高かったのが原因ではないかと推測されます。

合格者の平均年齢は全体で 43.2 歳であったのに対し、認定プログラム修了者は 32.0 歳でした。最年少の 26 歳の合格者 8 名のうち認定プログラム修了者は 7 名でした。全合格者数 2,355 名に占める認定プログラム修了者の合格者の割合は 9.4%とまだ小さいですが、第一次試験免除が若い技術士を生み出す推進力の 1 つとなって、今後も認定プログラム修了者の合格者がさらに増加して行くことが期待されます。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)

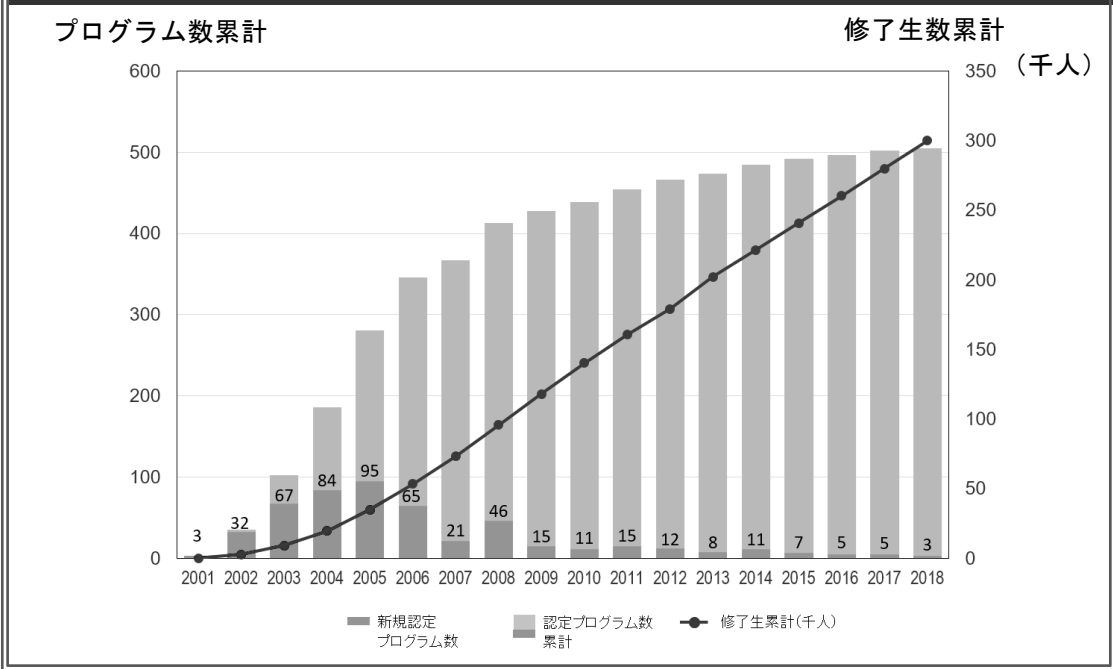


図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)

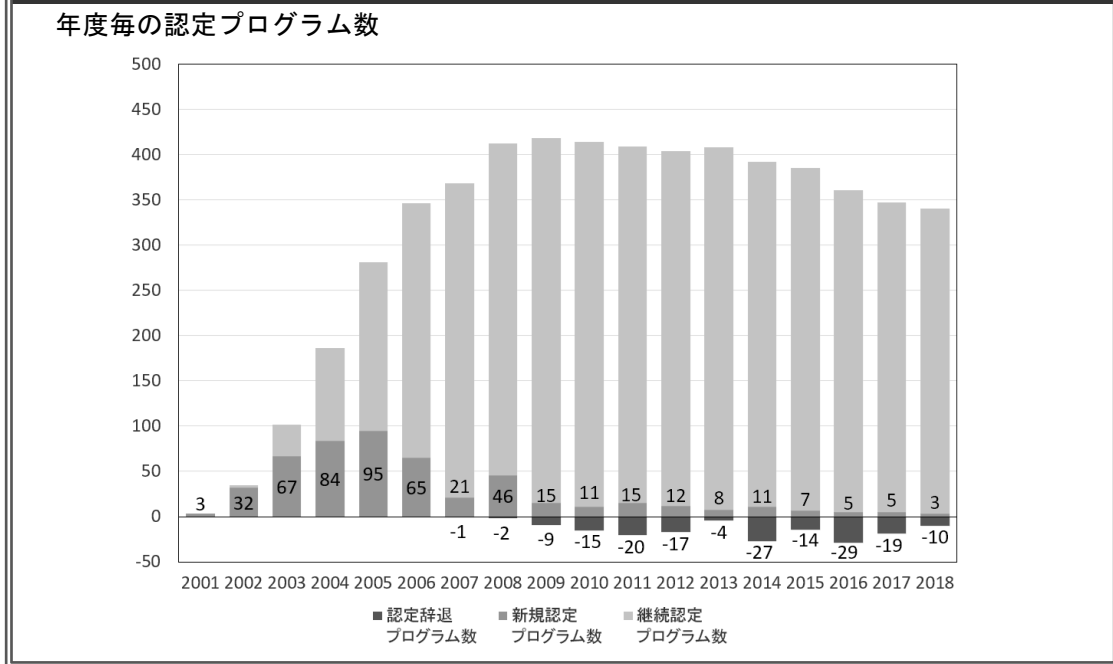


表 1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士]
2001-2018 累計及び 2018 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

教育機関種類	教育機関数	プログラム数
国立大学	54 (50)	234 (137)
公立大学	10 (6)	24 (8)
私立大学	55 (49)	164 (131)
高等専門学校(専攻科)	52 (46)	82 (63)
大学校	1 (1)	1 (1)
< 合計 >	172 (150)	505 (340)

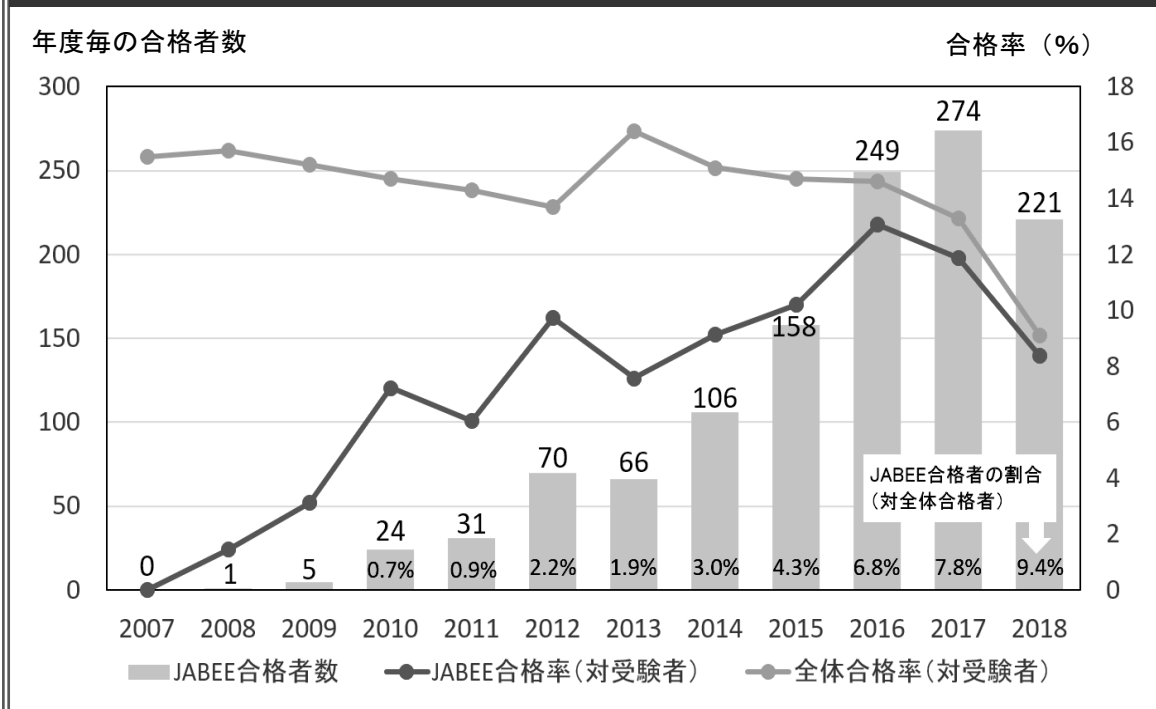
認定プログラム数累計、ただし () 内は 2018 年度時点の認定プログラム数

表 2 分野別認定プログラム数 [学士、修士]
2001-2018 累計及び 2018 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

分野	2001-2018 累計(現在)
化学および化学関連分野/化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (26)
機械および機械関連分野/機械及び関連の工学分野	83 (48)
材料および材料関連分野/材料及び関連のエンジニアリング分野	15 (11)
地球・資源およびその関連分野/地球・資源及び関連のエンジニアリング分野	11 (9)
情報および情報関連分野/情報専門系学士課程(CS、IS、IT、情報一般分野)	41 (19)
電気・電子・情報通信およびその関連分野/電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野/電気電子及び関連の工学分野	63 (42)
土木および土木関連分野/土木及び関連の工学分野	66 (57)
農業工学関連分野/農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (14)
工学(融合複合・新領域)関連分野/工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野	62 (49)
建築学および建築学関連分野/建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築学学士修士課程(建築設計・計画系分野)	43 (31)
物理・応用物理学関連分野/物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野/経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
農学一般関連分野/農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (12)
森林および森林関連分野/森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (4)
環境工学およびその関連分野/環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (4)
生物工学および生物工学関連分野/生物工学及び関連のエンジニアリング分野	9 (6)
総計	505 (340)

認定プログラム数累計、ただし () 内は 2018 年度時点の認定プログラム数

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



2018 年度決算報告（案）

2018 年度決算報告

監査報告書

社員名簿

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預入金	46,552,344	54,688,040	△ 8,135,696
未収入金	69,206,400	58,545,900	10,660,500
貯蔵品	341,179	363,908	△ 22,729
前払金	85,000	334,016	△ 249,016
立替金	0	0	0
前払費用	1,780,855	688,308	1,092,547
仮払金	2,867,179	601,237	2,265,942
流動資産合計	120,832,957	115,221,409	5,611,548
2. 固定資産			
(1)特定資産			
積立預金	40,000,000	40,000,000	0
退職給付引当預金	18,440,000	16,679,000	1,761,000
特定資産合計	58,440,000	56,679,000	1,761,000
(2)その他固定資産			
什器備品	20,627	27,615	△ 6,988
ソフトウェア	9,751,499	7,565,405	2,186,094
リース資産	6,345,216	3,772,440	2,572,776
敷金	2,741,466	2,741,466	0
その他固定資産合計	18,858,808	14,106,926	4,751,882
固定資産合計	77,298,808	70,785,926	6,512,882
資産合計	198,131,765	186,007,335	12,124,430
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	2,177,930	2,581,892	△ 403,962
前受金	0	0	0
賞与引当金	3,836,800	4,056,800	△ 220,000
預り金	265,031	510,443	△ 245,412
未払消費税	835,300	0	835,300
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	7,185,061	7,219,135	△ 34,074
2. 固定負債			
退職給付引当金	18,440,000	16,679,000	1,761,000
リース債務	6,345,216	3,988,008	2,357,208
固定負債合計	24,785,216	20,667,008	4,118,208
負債合計	31,970,277	27,886,143	4,084,134
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	166,161,488 (40,000,000)	158,121,192 (40,000,000)	8,040,296 (0)
正味財産合計	166,161,488	158,121,192	8,040,296
負債及び正味財産合計	198,131,765	186,007,335	12,124,430

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	[15,900,000]	[16,400,000]	[△ 500,000]
正会員受取会費	10,100,000	10,100,000	0
賛助会員受取会費	5,800,000	6,300,000	△ 500,000
受取認定審査料	[67,932,000]	[89,532,000]	[△ 21,600,000]
受取学部審査料	67,932,000	89,532,000	△ 21,600,000
受取認定維持料	[31,320,000]	[28,620,000]	[2,700,000]
受取認定維持料	31,320,000	28,620,000	2,700,000
認証評価手数料	[3,780,000]	[3,780,000]	[0]
受託事業収益	[58,887,000]	[58,091,040]	[795,960]
雑収益	[1,630,699]	[499,968]	[1,130,731]
経常収益計	179,449,699	196,923,008	△ 17,473,309
(2) 経常費用			
事業費	[143,698,707]	[163,193,152]	[△ 19,494,445]
(認定・審査事業費)	(59,422,408)	(76,029,426)	(△ 16,607,018)
学協会認定審査費	48,708,000	66,960,000	△ 18,252,000
認定・審査調整委員会費	3,716,872	2,369,696	1,347,176
専門職大学院関係費	5,735,615	5,668,921	66,694
旅交通費	1,116,007	761,203	354,804
通信運搬費	124,200	197,810	△ 73,610
消耗品費	21,714	71,796	△ 50,082
(審査員事業費)	(6,316,414)	(7,477,691)	(△ 1,161,277)
審査員研修費	6,202,414	7,327,691	△ 1,125,277
審査員保険料	114,000	150,000	△ 36,000
(国際活動事業費)	(3,366,575)	(4,122,955)	(△ 756,380)
旅交通費	2,673,244	3,384,116	△ 710,872
登録維持費	552,194	579,094	△ 26,900
国際委員会会議費	141,137	159,745	△ 18,608
翻訳	0	0	0
国際審査員養成研修費	0	0	0
(広報事業費)	(724,116)	(399,157)	(324,959)
広報費	724,116	399,157	324,959
(事業共通費)	(39,398,155)	(48,082,998)	(△ 8,684,843)
給与手当	31,131,998	37,964,600	△ 6,832,602
退職給付費用	1,408,800	2,145,600	△ 736,800
会議	402,871	358,383	44,488
消耗品費	600,692	620,042	△ 19,350
貸借料	4,919,443	5,903,332	△ 983,889
リース	0	159,787	△ 159,787
リース減価償却	875,707	931,254	△ 55,547
雑費	58,644	0	58,644
(受託事業執行経費)	(34,471,039)	(27,080,925)	(7,390,114)
旅費	15,029,571	14,312,843	716,728
一般業務費	5,466,340	6,993,372	△ 1,527,032
再国内委託	5,084,236	4,178,311	905,925
国内研修	0	161,227	△ 161,227
機材	20,385	16,684	3,701
雑費	8,870,507	1,418,488	7,452,019
管理費	[27,710,696]	[27,177,892]	[532,804]
役員報酬	1,200,000	1,200,000	0
給与	10,278,168	10,538,684	△ 260,516
福利厚生	30,150	7,038	23,112
退職給付費用	352,200	536,400	△ 184,200
会議	986,167	847,433	138,734
旅交通費	52,750	41,720	11,030
通信運搬費	326,212	274,340	51,872
消耗品費	187,988	172,233	15,755
登録借守料	948,529	820,237	128,292
貸借料	1,639,814	1,639,814	0
リース料	58,320	44,385	13,935
水道光熱	284,860	285,036	△ 176
支払手数料	1,476,306	1,282,070	194,236
租税	5,901,100	7,161,800	△ 1,260,700
雑費	789,615	753,149	36,466
什器備品減価償却	6,988	18,537	△ 11,549
ソフトウェア減価償却	2,899,626	1,296,335	1,603,291
リース減価償却	291,903	258,681	33,222
経常費用計	171,409,403	190,371,044	△ 18,961,641
当期経常増減額	8,040,296	6,551,964	1,488,332
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	8,040,296	6,551,964	1,488,332
一般正味財産期首残高	158,121,192	151,569,228	6,551,964
一般正味財産期末残高	166,161,488	158,121,192	8,040,296
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	166,161,488	158,121,192	8,040,296

財務諸表に関する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・定額法によっている。

ソフトウェア・・・定額法によっている。

リース資産・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

退職給付引当金

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

本注記をもって附属明細書の基本財産及び特定資産の明細に代えるものとする。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
運営強化資金積立預金	40,000,000	0	0	40,000,000
退職給付引当預金	16,679,000	1,761,000	0	18,440,000
合 計	56,679,000	1,761,000	0	58,440,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの 充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
運営強化資金積立預金	40,000,000	0	40,000,000	0
退職給付引当預金	18,440,000	0	0	18,440,000
合 計	58,440,000	0	40,000,000	18,440,000

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,132,934	1,112,307	20,627
ソフトウェア	16,279,746	6,528,247	9,751,499
リース資産	13,517,280	7,172,064	6,345,216
合 計	30,929,960	14,812,618	16,117,342

5. 引当金の明細

引当金の明細は、次のとおりである。

本注記をもって附属明細書の引当金の明細に代えるものとする。

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	4,056,800	3,836,800	4,056,800	3,836,800
退職給付引当金	16,679,000	1,761,000	0	18,440,000
合 計	20,735,800	5,597,800	4,056,800	22,276,800

当期減少額は全額目的使用の取崩である。

財産目録

平成31年3月31日現在


(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金	現金手許有高 普通預金	運転資金として	78,418
		三井住友銀行三田通支店 普通預金	運転資金として	419,439
	未収入金	みずほ銀行芝支店 JICA受託未収分	運転資金として	46,054,487 69,206,400
	貯蔵品	認定証ファイル 299個 徽章 55個		303,545 37,634
	前払金	日本建築会館ホール使用予約		85,000
	前払費用	事務所家賃共益費他		1,780,855
	仮払金			2,867,179
流動資産合計				120,832,957
(固定資産)				
特定資産	積立預金	運営強化資金積立預金 みずほ銀行芝支店		40,000,000
	退職給付引当預金	退職給与引当預金 三井住友銀行三田通支店	退職金の支払いに備えたもの	18,440,000
その他固定資産	什器備品	パソコン他		20,627
	ソフトウェア	認定プログラム管理システム他		9,751,499
	リース資産	複合機		6,345,216
	敷金	事務所敷金		2,741,466
固定資産合計				77,298,808
資産合計				198,131,765
(流動負債)				
	未払費用	給与、謝金他		2,177,930
	賞与引当金	従業員に対するもの	賞与の支払いに備えたもの	3,836,800
	預り金	社会保険料預り金		265,031
	未払消費税等	確定消費税及び地方消費税		835,300
	未払法人税等	法人都民税均等割		70,000
流動負債合計				7,185,061
(固定負債)				
	退職給付引当金	従業員に対するもの	退職金の支払いに備えたもの	18,440,000
	リース債務	複合機		6,345,216
固定負債合計				24,785,216
負債合計				31,970,277
正味財産				166,161,488

監 査 報 告 書

一般社団法人日本技術者教育認定機構
会 長 有 信 陸 弘 殿

平成 31 年 4 月 19 日

監 事 篠 田 庄 司 

監 事 山 口 宏 樹 

私たち監事は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、役職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその付属書類について検討いたしました。さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書について精査いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

①事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその付属明細書監査結果

計算書類及びその付属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

一般社団法人日本技術者教育認定機構

社員名簿

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 公益社団法人応用物理学会 | 日本作物学会 |
| 一般社団法人日本物理学会 | 公益社団法人日本地すべり学会 |
| 公益社団法人化学工学会 | 公益社団法人日本食品科学工学会 |
| 公益社団法人日本化学会 | 一般社団法人日本食品工学会 |
| 経営工学関連学会協議会 | 日本信頼性学会 |
| 一般社団法人資源・素材学会 | 公益社団法人日本水産学会 |
| 一般社団法人情報処理学会 | 日本水産工学会 |
| 一般社団法人森林・自然環境技術者教育会 | 一般社団法人日本設備管理学会 |
| 一般社団法人電気学会 | 公益社団法人日本セラミックス協会 |
| 一般社団法人電子情報通信学会 | 公益社団法人日本造園学会 |
| 公益社団法人土木学会 | 公益社団法人日本船舶海洋工学会 |
| 一般社団法人日本機械学会 | 一般社団法人日本塑性加工学会 |
| 公益社団法人日本技術士会 | 公益社団法人日本地下水学会 |
| 一般社団法人日本建築学会 | 一般社団法人日本地質学会 |
| 公益社団法人日本工学教育協会 | 日本農業工学会 |
| 公益社団法人日本生物工学会 | 公益社団法人日本農芸化学会 |
| 一般社団法人日本鉄鋼協会 | 一般社団法人日本品質管理学会 |
| 公益財団法人農学会 | 公益社団法人日本分析化学会 |
| 公益社団法人農業農村工学会 | 一般社団法人日本木材学会 |
| 園芸学会 | 日本緑化工学会 |
| 公益社団法人空気調和・衛生工学会 | 一般社団法人日本森林学会 |
| 一般社団法人経営情報学会 | 一般社団法人日本ロボット学会 |
| 公益社団法人計測自動制御学会 | 農業食料工学会 |
| 研究イノベーション学会 | 公益社団法人腐食防食学会 |
| 公益社団法人高分子学会 | 公益社団法人プレストレストコンクリート工学会 |
| 公益社団法人砂防学会 | 一般社団法人プロジェクトマネジメント学会 |
| 公益社団法人自動車技術会 | 一般社団法人溶接学会 |
| 公益社団法人地盤工学会 | |
| 一般社団法人照明学会 | |
| 一般社団法人繊維学会 | |
| 一般社団法人ターボ機械協会 | |
| 公益社団法人電気化学会 | |
| 一般社団法人電気設備学会 | |
| 一般社団法人日本応用地質学会 | |
| 公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会 | |
| 公益社団法人日本金属学会 | |
| 公益社団法人日本経営工学会 | |
| 一般社団法人日本原子力学会 | |
| 一般社団法人日本航空宇宙学会 | |
| 公益社団法人日本コンクリート工学会 | |

役員等選任（案）

役員等選任候補者

新任役員候補者の主たる経歴

役員等選任候補者

(敬称略)

	氏名	選出	所属	区分
理事	富田 達夫		独立行政法人情報処理推進機構理事長	
理事	本城 勇介		岐阜大学 名誉教授	
理事	岸本 喜久雄		国立教育政策研究所フェロー 東京工業大学名誉教授	
理事	三田 清文		一般社団法人日本技術者教育認定機構 事務局長	新任
理事	佐藤 之彦		千葉大学大学院 工学研究院長 工学部長	
理事	藤井 俊二		元 大成建設株式会社 技師長	
理事	須藤 亮		株式会社東芝 特別嘱託	
理事	有吉 司		株式会社日立アカデミー 取締役 技術研修本部 本部長	
理事	深堀 聡子		九州大学教育改革推進本部 教授	
理事	久間 和生		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長	新任
理事	望月 康則		日本電気株式会社 フェロー	新任
理事	小林 正生	一般社団法人日本機械学会	株式会社 I H I 技術開発本部 技監	
理事	雑賀 高	公益社団法人日本工学教育協会	公益社団法人日本工学教育協会理事	交替
理事	八坂 保弘	一般社団法人電気学会	株式会社日立製作所 電力ビジネスユニット 統括技術主幹	
理事	丸井 敦尚	一般社団法人資源・素材学会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 総括研究主幹	交替
理事	奈良 人司	公益社団法人日本技術士会	公益社団法人日本技術士会専務理事	
理事	栗田 哲	一般社団法人日本建築学会	東京理科大学工学部建築工学科 教授	交替
理事	福田 敦	公益社団法人土木学会	日本大学 理工学部 教授	
理事	成島 尚之	一般社団法人日本鉄鋼協会	東北大学大学院工学研究科 教授	交替
理事	大村 仁	公益社団法人農業農村工学会	N T C コンサルタンツ株式会社 代表取締役社長	
理事	石井 洋一	化学分野JABEE委員会	中央大学理工学部 教授	交替
理事	渡部 終五	公益財団法人農学会	北里大学海洋生命科学部 特任教授	
理事	高橋 尚子	一般社団法人情報処理学会	國學院大學経済学部 教授	交替
理事	牧野 光則	一般社団法人電子情報通信学会	中央大学理工学部 教授	交替
理事	葛生 伸	物理・応用物理学関連学協会間 JABEE連絡協議会	福井大学学術研究院工学系部門 物理工学講座 教授	交替
理事	辻村 泰寛	経営工学関連学協会協議会	経営工学関連学協会協議会 会長	
理事	6月決定予定	公益社団法人森林・自然環境技術 教育研究センター		
理事	滝澤 昇	公益社団法人日本生物工学会	岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科 教授	交替
監事	篠田 庄司		中央大学 名誉教授	
監事	山口 宏樹		埼玉大学 学長	

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

三田 清文 (さんだ きよふみ)

主たる経歴

- ・ 青山学院大学理工学部電気電子工学科卒業
- ・ 電気通信大学大学院電気通信学研究科
電波通信学専攻修了
- ・ 株式会社東芝 深谷工場カメラ設計部長
- ・ 株式会社東芝 デジタルメディアネットワーク社
技術企画室長
- ・ 東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社
取締役 デジタルメディアグループ
ゼネラルマネジャー
- ・ 株式会社ティービーアイ 技術本部長

主たる現職

- ・ 一般社団法人日本技術者教育認定機構 事務局長
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

久間 和生 (きゅうま かずお)

主たる経歴

- ・ 東京工業大学大学院博士課程
電子物理工学専攻修了 (工学博士)
- ・ 三菱電機株式会社入社 (中央研究所勤務)
- ・ 同社 先端技術総合研究所長
- ・ 同社 上席常務執行役開発本部長
- ・ 同社 専務執行役半導体・デバイス事業本部長
- ・ 同社 代表執行役副社長
- ・ 同社 常任顧問
- ・ 総合科学技術・イノベーション会議議員 (常勤)

主たる現職

- ・ 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事長
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

望月 康則 (もちづき やすのり)

- 主たる経歴
- ・ 東京大学大学院 工学系研究科
電子工学専攻 博士課程修了
 - ・ 日本電気株式会社入社 (基礎研究所配属)
 - ・ 同社 情報・メディアプロセッシング研究所長
 - ・ 同社 中央研究所支配人 兼
情報・プロセッシング研究所長
 - ・ 同社 中央研究所理事 兼
技術イノベーション戦略本部長
 - ・ 同社 執行役員 (全社技術戦略担当)

主たる現職 日本電気株式会社 NECフェロー
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

雑賀 高 (さいか たかし)

主たる経歴

- ・ 東京都立大学大学院
工学研究科機械工学専攻修士課程修了
- ・ 工学院大学工学部国際基礎工学科助教授
- ・ 工学院大学工学部国際基礎工学科教授
- ・ 工学院大学グローバルエンジニアリング学部
機械創造工学科教授
- ・ 工学院大学グローバルエンジニアリング学部・学部長

主たる現職

- ・ 工学院大学先進工学部機械理工学科 教授
- ・ 公益社団法人日本工学教育協会 理事
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

丸井 敦尚 (まるい あつなお)

主たる経歴

- ・筑波大学大学院 地球科学専攻課程修了
- ・立正大学 文学部 地理学科 助手
- ・通産省 工業技術院 地質研究所 研究員
- ・同省 工業技術院 地質研究所 主任研究員
- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地圏資源環境研究部門 地質バリア研究グループ長
- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ長

主たる現職

- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地圏資源環境研究部門 総括研究主幹
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

栗田 哲 (くりた さとし)

主たる経歴

- ・ 東北大学大学院工学研究科建築学専攻
博士後期課程修了
- ・ 東北大学工学部建築学科助手
- ・ 東北大学工学部建築学科助教授
- ・ 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻助教授

主たる現職

- ・ 東京理科大学工学部建築工学科 教授
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

成島 尚之 (なるしま たかゆき)

- 主たる経歴
- ・ 東北大学大学院工学研究科金属材料工学専攻
博士課程前期課程修了
 - ・ 東北大学工学部金属工学科助手
 - ・ 東北大学工学部金属工学科助教授
 - ・ 東北大学先進医工学研究機構
生体用材料創製分野教授
- 主たる現職
- ・ 東北大学大学院工学研究科 教授
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

石井 洋一 (いしい よういち)

主たる経歴

- ・ 東京大学大学院工学系研究科合成化学専門課程
博士課程修了
- ・ 東京大学大学院工学系研究科専任講師
- ・ 東京大学大学院工学系研究科助教授
- ・ 中央大学理工学部教授
- ・ 中央大学理工学部長
- ・ 中央大学大学院理工学研究科委員長

主たる現職

- ・ 中央大学理工学部 教授
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

高橋 尚子 (たかはし なおこ)

- 主たる経歴
- ・東京女子大学文理学部数理学科卒業
 - ・富士通株式会社入社
 - ・株式会社アスキー入社
 - ・株式会社片貝システム研究所入社
 - ・ナウハウス株式会社入社
(現：ナウハウス有限会社)
 - ・國學院大學経済学部兼任講師

- 主たる現職
- ・國學院大學経済学部 教授
 - ・ナウハウス有限会社 代表取締役
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

牧野 光則 (まきの みつのり)

主たる経歴

- ・ 早稲田大学大学院理工学研究科
電気工学専攻博士後期課程修了 (工学博士)
- ・ 早稲田大学理工学部助手
- ・ 中央大学理工学部専任講師
- ・ 中央大学理工学部助教授
- ・ 中央大学理工学部教授
- ・ 中央大学理工学部長補佐

主たる現職

- ・ 中央大学理工学部 教授
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

葛生 伸 (くずう のぶ)

主たる経歴

- ・ 東京都立大学大学院理学研究科
博士課程物理学専攻修了 (理学博士)
- ・ 東洋曹達工業株式会社 入社 (現：東ソー株式会社)
- ・ 山口日本石英株式会社 出向
(現：東ソー・エスジーエム株式会社)
- ・ 日本石英硝子株式会社 出向
(現：東ソー・クォーツ株式会社)
- ・ 福井大学工学部応用物理学科助教授

主たる現職

- ・ 福井大学
学術研究院工学系部門物理工学講座 教授
(現在に至る)

以上

新任役員等候補者の主たる経歴

(敬称略)

新任理事候補者

滝澤 昇 (たきざわ のぼる)

- 主たる経歴
- ・ 大阪大学工学部醗酵工学科卒業
 - ・ 広島大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)
 - ・ 岡山理科大学工学部教授
 - ・ 岡山理科大学 FD 推進室長兼理科教育センター長
 - ・ 岡山理科大学工学部長兼工学研究科長
 - ・ 岡山理科大学副学長 (教育担当)
 - ・ 岡山理科大学工学プロジェクトコース長
- 主たる現職
- ・ 岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科 教授
(現在に至る)

以上

付表・資料

1. 2018年度 JABEE 認定審査新規認定プログラム一覧
2. 2018年度 JABEE 認定審査暫定認定プログラム一覧
3. 2018年度 JABEE 認証評価適格認定専攻
4. 2019年度事業計画及び収支予算
 - (1) 事業計画
 - (2) 収支予算
5. 2018年度委員会経過報告
6. 2018年度フェロー認定者
7. 賛助会員リスト

2018年度 JABEE認定審査 新規認定プログラム一覧

認定種別・認定分野	認定教育機関名	学部・学科	認定プログラム名	認定開始年度
生物工学及び関連のエンジニアリング分野	長浜バイオ大学	バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科	アニマルバイオサイエンスコース	2017*
	長浜バイオ大学	バイオサイエンス学部コンピュータバイオサイエンス学科	コンピュータバイオサイエンスコース	2017*
	長浜バイオ大学	バイオサイエンス学部バイオサイエンス学科	バイオサイエンスコース	2017*

注) 認定開始年度 2017* は、審査を受けた年度の前年度の4月1日を認定の有効期間の開始日とする。

認定種別・認定分野名に課程の記載がないプログラムの認定種別は、エンジニアリング系学士課程である。

JABEE認定審査 暫定認定プログラム一覧

2019年3月8日現在

認定種別・認定分野	認定教育機関名	学部・学科	暫定認定プログラム名	認定開始年度
情報専門系学士課程 CS(コンピュータ科学)分野	帝京大学	理工学部情報電子工学科	情報科学コース	2016
機械及び関連の工学分野	東京工業大学	工学院	機械系	2018
	東京都市大学	工学部	機械システム工学科	2018
電気・電子及び関連の工学分野	東京工業大学	工学院	電気電子系	2018
建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野	日本大学	生産工学部	建築工学科	2018

注) 認定種別・認定分野名に課程の記載がないプログラムの認定種別は、エンジニアリング系学士課程である。

JABEE認証評価 適格認定専攻

(2018年度に実施した認証評価の結果、適格と判定された専攻)

教育機関名	専攻名	分野	認証評価年度
京都情報大学院大学 応用情報技術研究科	ウェブビジネス技術専攻	情報技術	2018年度

過去に実施した認証評価結果につきましては下記URLよりご参照いただけます。

<https://jabee.org/pgschool/result/>

2019 年度事業計画及び収支予算

(1) 事業計画

(2) 収支予算

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

2019 年度事業計画
(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

1. 基本方針

基幹事業の認定事業については、2019 年度から新たに適用される認定基準・審査方法による認定審査の円滑な実施、認定プログラムの減少に対する歯止め対策の実施、新規認定プログラムの発掘に努める。

情報発信を強化し、特に産業界の認知度向上に努めるとともに、新規賛助会員を開拓する。

インドネシア IABEE 設立支援の JICA 技術協力プロジェクトを引き続き推進していく。

2. 事業計画

2.1 認定事業

2019 年度のプログラム認定審査申請件数は、例年の実績と比べて著しく少ないことが予測される。これは 2008 年に認定有効期間を 5 年から 6 年に延長したことにより定期的に発生する谷間の年にあたるためである。近年の傾向としては、新規認定プログラムより認定継続を辞退するプログラムが増えており、現時点で有効な認定プログラムの数は減ってきている。認定事業委員会を中心に、認定プログラムの減少に対する歯止め対策の実施、新規認定プログラムの発掘に努める。

教育機関と JABEE 双方の審査の負荷軽減と審査の質の向上につなげることを主眼として、2019 年度から適用する認定基準の改定とそれに基づく審査方法の改善を行い、2018 年度には本改定の周知のための説明会を全国 5 ヶ所で開催した。2019 年度は改定後の認定基準に基づく認定審査の円滑な実施を進めていく。

また、大学改革支援・学位授与機構と審査項目の重複の削減を目指して会合を持ち、2018 年度には相互の情報提供のための覚書に署名した。2019 年度は更に詳細な議論を行い、JABEE 認定プログラムが大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受審する際の審査負荷軽減となるように進めていく。

さらに、審査員研修会は、審査員数が例年より減少するため、日帰り研修会は実施せず、一泊研修会 2 回のみとする。e-learning は引き続き実施するとともに、より効果的な研修手段となるようにしていく。

2.2 広報普及活動

戦略的な広報は JABEE の最重要課題であり、2017 年度にはウェブサイトのリニューアルを行った。2018 年度はウェブサイトのブラッシュアップを進め、教育機関関係者、高校生やその保護者、社会一般の方々に、JABEE への理解を深められるコンテンツを盛り込んでいく。産業界への認知度向上のため、産業界とのネットワーク作りをさらに進めることを目的として 2018 年度よりメールマガジンの発行を始めた。2019 年度はこれらをさらに内容を充実させていく。また就職説明会の場を利用した企業関係者への PR 活動や JABEE 関

係者の人脈を通して、賛助会員及びプログラムの開拓を進めていく。

また日本工学教育協会との共催ワークショップで、教育の質保証や認定制度に関する調査研究や提言など、最新情報を提供していく。

2.3 国際協定への対応

2017年11月にJABEEのワシントン協定継続加盟審査が行われ、2018年6月のワシントン協定総会で6年の継続加盟が承認された。

ワシントン協定総会では、近年多発している加盟団体による基本的合意事項違反の問題に関して、加盟国間での審議が続いている。2019年は6月に香港で開催される総会へ出席し対応していく。

暫定加盟中のキャンベラ協定は、8月に南アフリカで開催されるキャンベラ協定総会へ出席し、正式加盟を目指す。

2.4 JICA 技術協力プロジェクト

インドネシア IABEE 設立支援 JICA 技術協力プロジェクトは、最終フェーズとなる第3年次（2017年4月～2019年10月）の最終年にあたる。2019年6月のワシントン協定総会で IABEE のワシントン協定への暫定加盟が実現できるように支援していく。

本プロジェクトについては高い評価が得られ、期待も高まっているので、他のアジア諸国におけるわが国および JABEE のプレゼンス向上に努めていく。

2.5 専門職大学院の認証評価

2019年度は2専攻の評価を行う。10～11月に実地調査を行い2020年3月に認証評価報告書を文部科学大臣に提出する。併せて申請専攻の自己評価書と認証評価報告書を JABEE ウェブサイトに公表する。

2.6 自己評価

2006年、2013年の自己評価に続き、本年度中に自己評価を実施する。

2.7 20周年記念行事

JABEE は1999年に設立され、2019年は20年の節目となる。2009年の10周年記念式典に続き、11月に記念行事を開催する。

以上

収支予算書（正味財産増減計算書ベース）

平成31年 4月 1日から平成32年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	[15,700,000]	[15,900,000]	[△ 200,000]
正会員受取会費	9,900,000	10,100,000	△ 200,000
賛助会員受取会費	5,800,000	5,800,000	0
受取認定審査料	[25,110,000]	[68,526,000]	[△ 43,416,000]
受取認定維持料	[34,884,000]	[29,052,000]	[5,832,000]
認証評価手数料	[7,560,000]	[3,780,000]	[3,780,000]
受託事業	[38,000,000]	[69,000,000]	[△ 31,000,000]
雑収益	[200,000]	[400,000]	[△ 200,000]
経常収益計	121,454,000	186,658,000	△ 65,204,000
(2) 経常費用			
事業費	[108,402,000]	[156,694,000]	[△ 48,292,000]
(認定・審査事業費)	(28,422,000)	(61,434,000)	(△ 33,012,000)
学協会認定審査費	19,278,000	49,734,000	△ 30,456,000
認定・審査委員会会議費	2,800,000	3,400,000	△ 600,000
専門職大学院関係費	5,844,000	6,500,000	△ 656,000
旅費	300,000	1,500,000	△ 1,200,000
通信運搬費	100,000	200,000	△ 100,000
消耗品費	100,000	100,000	0
(審査員事業費)	(4,000,000)	(9,150,000)	(△ 5,150,000)
審査員研修費	3,950,000	9,000,000	△ 5,050,000
審査員保険料	50,000	150,000	△ 100,000
(国際活動事業費)	(3,884,000)	(3,321,000)	(563,000)
旅費	2,758,000	2,099,000	659,000
登録維持費	516,000	976,000	△ 460,000
委員会会議費	300,000	246,000	54,000
国際審査員研修会	310,000	0	310,000
(広報事業費)	(800,000)	(1,000,000)	(△ 200,000)
広報費	800,000	1,000,000	△ 200,000
(事業共通費)	(40,780,000)	(54,189,000)	(△ 13,409,000)
給与手当	28,800,000	42,000,000	△ 13,200,000
退職引当金繰入	900,000	1,269,000	△ 369,000
会議費	600,000	600,000	0
消耗品費	1,020,000	1,300,000	△ 280,000
賃借料	5,100,000	6,120,000	△ 1,020,000
減価償却費用	2,760,000	2,800,000	△ 40,000
20周年記念行事費	1,500,000	0	1,500,000
雑費	100,000	100,000	0
(受託事業執行経費)	(30,516,000)	(27,600,000)	(2,916,000)
管理費	[24,360,000]	[28,554,000]	[△ 4,194,000]
給与手当	9,600,000	11,600,000	△ 2,000,000
役員引当金繰入	1,200,000	1,200,000	0
退職引当金繰入	300,000	360,000	△ 60,000
会議費	1,100,000	1,233,000	△ 133,000
旅費	50,000	60,000	△ 10,000
通信運搬費	300,000	350,000	△ 50,000
消耗品費	340,000	400,000	△ 60,000
登録保守料	1,200,000	1,200,000	0
賃借料	1,700,000	1,700,000	0
水道光熱費	350,000	350,000	0
支払手数料	1,300,000	1,300,000	0
租税公課	5,000,000	7,000,000	△ 2,000,000
雑費	1,000,000	1,000,000	0
減価償却	920,000	801,000	119,000
経常費用計	132,762,000	185,248,000	△ 52,486,000
当期経常増減額	△ 11,308,000	1,410,000	△ 12,718,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-	1,410,000	-
一般正味財産期首残高	-	151,569,228	-
一般正味財産期末残高	-	152,979,228	-
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	-	152,979,228	-

付表・資料

2018 年度委員会経過報告

2018 年度フェロー認定者

賛助会員リスト

2018 年度認定会議経過報告書

2019 年 5 月 29 日
認定会議議長 三木哲也

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》(敬称略)

議長 三木 哲也

専門分野から選任した委員

清水 和幸 生物工学及び関連のエンジニアリング分野
岩岡 正博 森林及び関連のエンジニアリング分野
増田 昌敬 地球・資源及び関連のエンジニアリング分野
石井 望 電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野
波田野 彰 物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野

議長推薦委員

篠田 庄司 中央大学名誉教授
寛 捷彦 早稲田大学名誉教授
福富 洋志 横浜国立大学名誉教授、放送大学特任教授、神奈川学習センタ
ー所長

オブザーバー

川田 誠一 首都大学東京副理事長、産業技術大学院大学学長
有吉 司 (株)日立製作所 総合教育センタ 日立総合技術研修所長
工藤 潤 公益財団法人大学基準協会 事務局長
本城 勇介 JABEE 副会長
富田 達夫 JABEE 副会長

審査・調整結果報告者

佐藤 之彦 認定・審査調整委員会委員長

《会議開催状況》

会議	月 日	時 間	場 所	出席委員数
2018 年度認定会議	2019. 03. 01 (金)	14:00~16:00	田町スクエア	9

2. 認定会議構成および審議方法

2013 年度認定会議から適用した委員・オブザーバー構成及び審議方法を継承して実施した。

3. 会議概要

認定・審査調整委員会委員長から 2018 年度の審査の経緯の説明、全体的な結果の説明及び問題等が指摘された典型的なプログラムの紹介があった。その後、各プログラムの審査結果に関する審議を受審教育機関及び分野ごとに一括して行った。審議の結果、認定・審査調整委員会に差戻す案件はなく、すべて認定・審査調整委員会からの提案どおり承認された。

審議終了後、オブザーバーを含めて意見交換を行い、機関別認証評価との連携等に関して意見が出された。

以上

2018 年度認定事業委員会経過報告書

2019 年 5 月 29 日

認定事業委員会委員長 岸本喜久雄

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》（敬称略）

[委員長] 岸本喜久雄

[副委員長] 佐藤之彦

[委員] 阿草清滋 奥田榮司 工藤一彦 黒倉 寿 小泉淳一 但野 茂 田中友章
玉井哲雄 福田 敦 藤井俊二 牧野光則

[事務局] 青島泰之 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数*
第 50 回	2018. 04. 06 (金)	13:00-15:10	建築会館	10
第 51 回	2018. 05. 24 (木)	10:00-12:00	建築会館	11
第 52 回	2018. 06. 22 (金)	10:00-12:10	建築会館	11
第 53 回	2018. 07. 30 (月)	10:00-12:15	建築会館	12
第 54 回	2018. 09. 07 (金)	10:00-12:15	建築会館	11
第 55 回	2018. 10. 26 (金)	13:00-15:10	建築会館	13
第 56 回	2019. 03. 11 (月)	10:00-12:00	建築会館	12

* 委任状を含む

2. 活動経過概要

認定事業委員会は、認定審査にかかわる基本方針および改善施策の策定と、基準委員会、認定・審査調整委員会および各分野委員会からの提案や問題提起への施策検討および審議を行い、案件に応じて理事会あるいは他の部門委員会に提案を行う。

2018 年度は以下の活動を行った。

(1) 2019 年度基準改定への対応

- ・ 基準・審査ルール等の改定の目的、基本的な考え方、改定スケジュール等に関する方針を決定し、本方針を踏まえた改定案の策定を基準委員会に付託した。
- ・ 基準委員会で作成した個別基準改定案及び関連文書改定案を審議し、文書を確定して公開した。なお、個別基準に関しては理事会による承認後に公開した。

(2) 2018 年度審査用文書類の承認と公表

主として基準委員会作成の提案に基づき、2018 年度審査用文書類の案を審議・承認し公表した。

(3) 将来に向けた課題の検討

文部科学省や国際協定などの動向に注目しながら、将来の JABEE の在り方について議論した。

JABEE の認定審査結果を大学改革支援・学位授与機構の機関別認証評価に活用して機関別認証評価の有効性を高め、さらに認定審査との重複による受審校の負担を軽減することを目的として、認証評価機関との情報共有のための覚書に署名した。

(4) JABEE フェロー制度の創設

JABEE の審査及び委員会等の活動に長年にわたり多大な貢献をされた方にフェローの称号を授与し、顕彰するとともに引き続き JABEE の活動を牽引していただくために JABEE フェロー制度を創設し、規程類を整備して 2019 年度から実施することとした。

(5) サマリーレポートの公表

認定・審査調整委員会作成の提案に基づき、2018 年度サマリーレポートの案を審議・承認し、理事会に報告後 JABEE ウェブサイトで公表した。

以上

2018年度財務・企画委員会経過報告書

2019年5月29日

財務・企画委員会委員長 岸本喜久雄

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》(敬称略)

[委員長] 岸本喜久雄

[委員] 大村仁 久保田裕二 八坂保弘

[事務局] 青島泰之 石井英志 三田清文 熊木美智子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
第1回	2018.06.15 (金)	10:00 - 12:00	建築会館	4
第2回	2018.08.03 (金)	13:35 - 15:30	建築会館	4
第3回	2018.09.07 (金)	13:00 - 15:00	建築会館	4
第4回	2018.11.22 (木)	13:00 - 15:00	建築会館	4
第5回	2019.02.13 (水)	10:00 - 12:25	建築会館	4
第6回	2019.03.15 (金)	9:30 - 11:30	建築会館	4

また JABEE 20 周年記念行事 (2019 年 11 月開催) に関して広報・普及委員会と財務・企画委員会との合同会議を 2 回開催した。

2. 活動経過のあらまし

本委員会は、JABEE の財務、組織運営および事業の企画・検討を担うことで組織されたが、2011 年度以降活動が滞り十分な施策が進まない状況で推移してきた。このため喫緊の課題である財務問題を中心に 2018 年度はタスクフォースとして活動を行った。

(1) 財務問題

- ・ JABEE の収支について分析、検討を行った。認定プログラム数並びに賛助会員数の減少で、業務委託事業がなければ JABEE 全体の収支は赤字となる。
- ・ 認定プログラム数や賛助会員数を増やしていくためのアクションアイテムの検討を行った。

(2) 20 周年記念行事

- ・ 2019 年 11 月に JABEE は創立 20 周年を迎える。これを機に JABEE の認定と認定プログラムを産業界、教育機関に PR する機会としてシンポジウム、記念式典と交流会を行うことを第 4 回通常理事会で提案し、承認を得た。
- ・ 広報・普及委員会と財務・企画委員会合同で検討を行い、『国際的に活躍する技術者

像と教育の国際認証』（仮題）をシンポジウムのテーマとして、大学関係者、企業関係者から基調講演をいただいた後、『国際認証の役割と課題』（仮題）をテーマとしてパネルディスカッションを行うことで計画を詰めていく。

(3) 規程類の改定

過去10年以上見直し、改定がなされていなかった規程類についての見直しを行った。国内出張規程、外国出張規程については、承認手続きや経費削減を含めた規定金額の見直しを行った。ロゴ使用に関する規程類については、これまでに JABEE 認定技術者教育プログラムが使用する認定ロゴの規程のみであったが、新たに規程を作成し、JABEE の PR 活動にも使用できるように対応した。文書管理規程を新たに作成し、資料の管理と廃棄について定めた。

以上

2018年度広報・普及委員会経過報告書

2019年5月29日

広報・普及委員会委員長 藤井 俊二

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》（敬称略）

[委員長] 藤井俊二

[委員] 荒居善雄 市坪 誠 工藤一彦 田名部元成

西園敏弘 平野輝美 三木哲也 森下 信 八坂保弘

[事務局] 青島泰之 三田清文 熊木美智子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
第28回	2018.06.22(金)	13:30 - 15:30	建築会館	7
第1回合同会議	2018.12.20(木)	13:00 - 14:00	建築会館	7
第2回合同会議	2019.03.11(月)	13:00 - 14:00	建築会館	7

2018年度はワーキンググループを主体とする活動を行った。

また JABEE 20周年記念行事（2019年11月開催）に関して広報・普及委員会と財務・企画委員会の合同による会議を開催した。

2. ワーキンググループ

(1) メールマガジン編集ワーキンググループ

[主 査] 平野輝美

[委員] 藤井俊二

[事務局] 三田清文 羽豆順子 熊木美智子

（開催状況）メルマガ掲載の記事内容についての打合せを4回行った。

(2) パンフレット作成ワーキンググループ

[主 査] 藤井俊二

[委員] 市坪 誠

[事務局] 三田清文 熊木美智子

（開催状況）パンフレットを作成するために、3回の打合せを行った。

(3) ワークショップ実行ワーキンググループ

[主 査] 工藤一彦

[委員] 市坪 誠 三木哲也

[事務局] 三田清文 熊木美智子

（開催状況）ワークショップ方向性検討会を含め3回の打合せを行った。

3. 活動経過のあらまし

本委員会は、JABEE の広報・普及に関する企画の立案と推進による認知度の向上を活動目的としている。ウェブサイトの情報更新、企業向けメールマガジンの配信、パンフレットの改訂と、大学の就職セミナーに於いて参加企業への JABEE の PR を行った。

(1) 産業界への認知度向上

- ・ 2018 年 5 月からメールマガジンによる企業向けの情報発信をスタートした。JABEE 認定についての連載記事や関連のトピックスを紹介する内容で、企業関係者と JABEE 正会員、賛助会員関係者や委員会関係者約 450 名に対し、5 回メールマガジンを配信した。
- ・ 2018 年 3 月に全面リニューアルしたウェブサイトにて JABEE 認定プログラムの修了生、教育機関の先生、企業審査員経験者などのインタビューを掲載した。
- ・ パンフレットについては企業関係者などに JABEE のことを知ってもらえるような内容に大幅変更し、ウェブサイトと連携した A4 版 4 ページ見開きタイプのものを 10 月に作成した。
- ・ 企業とのネットワークを構築するために昨年度に続き 2019 年 3 月も大学の担当部門のご協力をいただき、5 つの大学の就職セミナーに於いて参加企業合計約 1,400 社に JABEE のパンフレットを配布した。また認定プログラムの多い 2 大学を訪問し、企業の採用担当者に直接パンフレットを手渡した。

(2) JABEE-日工教共催ワークショップの開催

- ・ 日本工学教育協会との共催による “国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ” として第 13 回「学習・教育到達目標の達成度を高めるモジュール型教育」について東京電機大学東京千住キャンパスにて、33 名の参加を得て開催した。5 名の講師からモジュール型教育に関する講演を行った。そして「学習・教育到達目標に対応したモジュール型教育を取り入れたカリキュラムの設計」についてのグループワークを行った。(12 月 15 日開催)

(3) 正会員、賛助会員訪問

- ・ これまで JABEE の正会員として審査員を派遣いただいている学協会や賛助会員の企業関係者の方と直接会話する機会を設けていなかった。そこで JABEE の近況や課題について情報交換をさせていただくために、合計 17 の団体、会社を訪問した。
- ・ 高専、大学のプログラム関係者とも面会し意見交換会をさせていただいた。これらの活動を継続して、問題点の収集と JABEE への理解につなげていく。

(4) 20 周年記念行事

- ・ 2019 年 11 月に JABEE 創立 20 周年を迎える。これに関連して記念行事を行うこととなり、財務・企画委員会と合同で実行計画の検討を開始した。11 月 26 日にシンポジウムと交流会を開催することとした。JABEE 活動の意義について産業界、教育機関に PR、アピールする機会とするべく、内容の検討をすすめている。

以上

2018 年度国際委員会経過報告書

2019 年 5 月 29 日

国際委員会委員長 本城勇介

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》（敬称略）

[委員長] 本城勇介

[委員] 杉山俊幸 藤井俊二 玉井哲雄 猪股 宏 川村武也 新田洋司
富田因則 佐藤之彦（2018/11～）

[アドバイザー] 大橋秀雄

[事務局] 青島泰之 高橋明子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数 *
第 54 回	2019.01.17（木）	15:00-17:00	建築会館	9

* アドバイザー含む

1. 委員会経過

(1) ワシントン協定加盟団体としての責務

- ・ 2018 年 6 月 25～29 日にロンドンで開催された IEA 総会に副会長以下 3 名が出席した。
- ・ 2018 に継続審議が予定されていたイギリス ECUK の 3 年 Honor 学士のワシントン協定下における実質的同等性承認に関する事項は、審議の焦点が学歴要件から資格要件および技術士の移動へ移り、今後は International Professional Engineers Agreement で継続審議される事となった。
- ・ ペルーの正式加盟が承認され、正式加盟国は 20 カ国となった。チリの暫定加盟が承認され、暫定加盟団体は 5 カ国となった。また JABEE の 6 年間の継続加盟が承認された。

(2) 国際協定加盟団体としての責務

- ・ ワシントン協定加盟団体の責務の一つである新規加盟および継続加盟審査員の派遣に関し、1 名の国際委員を協定からの要請に応じ派遣した。

(3) インドネシアにおける国際協力の推進

- ・ 2014 年 11 月からスタートした 5 年間の JICA 技術協力プロジェクト「インドネシア技術者教育認定機構設立プロジェクト（IABEE）」の一環で、インドネシアでの現地審査に対する助言を行う為、国際委員長と国際委員が出張し対応した。

以上

2018 年度認定・審査調整委員会経過報告書

2019 年 5 月 29 日

認定・審査調整委員会委員長 佐藤 之彦

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》(敬称略)

[委員長] 佐藤之彦

[副委員長] 若井明彦 (第 107 回より)

[委員] 小島博光 中別府 修 成島尚之 丸井敦尚 佐渡一広 長尾雅行
田口 亮 米田 稔 藤崎浩幸 和田成夫 古賀一八 鈴木康夫
渡邊一衛 新田洋司 大久保達弘 松郷誠一 三木哲也 牧野光則
本城勇介 久下善生 中村暢文 荒居善雄 雑賀 高

[事務局] 青島泰之 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子
桑原美奈子 志澤英美

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
第 106 回	2018. 06. 01 (金)	14:00-16:00	建築会館	21
第 107 回	2018. 09. 18 (火)	15:00-17:00	田町スクエア	17
第 108 回	2018. 10. 12 (金)	14:00-16:00	建築会館	17
第 109 回	2018. 12. 03 (月)	15:00-16:30	建築会館	19
第 110 回	2019. 02. 09 (土)	10:00-17:30	建築会館	23
	2019. 02. 10 (日)	10:00-13:40		20
第 111 回	2019. 02. 23 (土)	10:00-14:45	建築会館	20

2. 部会、ワーキンググループ

(1) 審査員研修部会

[主 査] 梶原正憲

[委員] 荒居善雄 佐藤之彦 下吹越武人 鈴木康夫 高村岳樹 中別府修
若井明彦

[事務局] 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
2018 年度第 1 回	2018. 04. 24 (火)	15:00-17:00	建築会館	6
2018 年度第 2 回	2018. 05. 28 (月)	15:00-17:10	建築会館	6
2018 年度第 3 回	2018. 06. 19 (火)	15:00-17:00	建築会館	5
2018 年度第 4 回	2018. 08. 24 (金)	10:00-12:00	建築会館	5
2018 年度第 5 回	2018. 12. 17 (月)	13:00-14:25	建築会館	5

(2) 予備審査委員会

[委員長] 牧野光則

[委員] 若井明彦 中別府 修 長尾雅行 古賀一八 雑賀 高

[事務局] 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
2018年度第1回	2019.01.18(金)	13:30-16:30	建築会館	4+2(審査長)
2018年度第2回	2019.01.31(木)	13:00-15:00	建築会館	4+2(審査長)

3. 活動経過のあらまし

当委員会は、下記の通り技術者教育プログラムの認定審査を実施し、あわせて審査に関わるガイドラインの策定、審査の質向上施策の策定等を実施した。なお、審査取り進め経緯を、別紙の「2018年度 JABEE 認定・審査の経緯」に示した。

- (1) 認定申請を受けたプログラムの受理審議を行い、新規審査、認定継続審査、中間審査について、各分野への審査委託プログラムを決定した。
- (2) 審査担当分野から推薦された審査員の確認を行い、審査チームを編成した。また、その後種々な理由により審査員を変更する必要がある場合の対応を行った。
- (3) 同一校複数プログラムの一斉審査方式による審査を7教育機関で実施した。それらの審査団を取りまとめる審査団長および副審査団長を選任し派遣した。
- (4) 同一校複数プログラムの同日審査を1教育機関で実施した。
- (5) 審査員に対して認定基準や審査実施の手順と方法等の徹底をはかるために毎年実施している審査員研修会について、審査員研修部会により実施計画を策定し実施した。本年度は1泊研修会を2回、日帰り研修会を1回開催し、計160名(前年度は216名)が参加した。
- (6) 2017年度から開始したe-Learningによる審査関係の講習(ウェブ講習)を引き続き実施した。2018年度の審査長/審査員/オブザーバーに関しては全員に受講を依頼し、77%が受講した。この講習はJABEEのウェブサイトから誰でも受講可能としている。
- (7) 審査の過程で発生した検討事項について審議、調整を行った。
- (8) 各分野から提出された分野別審査報告書に基づき審査結果の調整を行い、最終審査報告書を取りまとめて認定可否案とともに認定会議に提出した。
- (9) 予備審査の審査チームから提出された予備審査報告書Iを予備審査委員会で審査長出席のもとに審議し、その結果を予備審査報告書IIとして認定・審査調整委員会に提出した。それに基づき予備審査結果の調整を行い、最終予備審査報告書を取りまとめ

て暫定認定可否案とともに認定会議に提出した。

- (10) 2013年度から適用しているスケジュールに従って審査を実施した。その結果、3月1日の認定会議後に認定可否の内定通知を各受審プログラムに送付し、3月8日の理事会後に正式通知するとともに認定されたプログラム名をJABEEのウェブサイトで公表した。
- (11) 2016年度で廃止した変更通知に代わり、2017年度に引き続いて、8月に認定期間中の全プログラムから年次報告書が提された。
- (12) 認定・審査の改善のため、例年通り、前年度の受審プログラムの関係者および本年度の審査員全員にアンケートを実施し、課題の把握を行った。審査員へのアンケート結果は審査員推薦の参考になるよう、それぞれの審査員を派遣した審査チーム派遣機関に送付した。また最近の受審プログラムアンケートと審査員アンケートのそれぞれの回答を比較し、問題点の分析を行った。
- (13) 分野学協会主催の合計3件の審査講習会の開催計画について審議し、全てを承認した。
- (14) ウェブ講習修了者についてのオブザーバー（研修者）参加資格の取り扱い、並びに分野学協会主催の審査講習会との関係等に関する取り決めを、既存の「学協会主催審査講習会についての要件」に反映させて正式文書とした。
- (15) 2019年度から適用する改定基準及びその関連文書について、基準委員会が作成した案に対する意見及び修正案を提出した。

以上

2018年度 JABEE 認定・審査の経緯

<u>2018年</u>	<u>審 議</u>	<u>審 査</u>
3月31日		受審校申請締切
4月25日	メール審議により審査団長、副審査団長決定	
6月1日	第106回認定・審査調整委員会 ・申請受理の審議決定 ・審査チーム編成審議決定	
7月1日		自己点検書提出締切
7月7～8日		審査員研修会（第1回）1泊研修
7月21～22日		審査員研修会（第2回）1泊研修
7月28日		審査員研修会（第3回）日帰研修
9月18日	第107回認定・審査調整委員会 ・2019年度認定・審査用文書に関する議論	
9月～11月		実地審査
10月12日	第108回認定・審査調整委員会 ・審査進捗に伴う案件のフォロー ・調整審議、認定会議の詳細決定	
～12月		一次審査報告書提出（実地審査後 2W以内） 異議申立、改善報告書（実地審査後 4W以内） 二次審査報告書提出（実地審査後 6W以内）
12月3日	第109回認定・審査調整委員会 ・分野別審査委員会に向けての確認 ・2019年度同一教育機関複数プログラムの審査方法決定 ・2019年度適用審査関係文書の確定 ・プログラム／審査員アンケートについて ・基準改定について	

2019年

審 議

審 査

- 1月31日 分野別審査報告書を JABEE へ提出
- 2月9～10日 第110回認定・審査調整委員会 認定審査調整
- ・各分野審査結果の報告と問題点の把握、調整
(新規・中間・認定継続各審査結果)
 - ・複数プログラム審査校の分野間の調整
- 2月23日 第111回認定・審査調整委員会 認定審査調整
- ・前回検討課題の修正案確認
 - ・認定会議提出用最終審査報告書作成検討
 - ・認定可否・有効期間案作成、中間審査の審査項目とV/R
 - ・サマリーレポート案への意見
 - ・一斉審査の方法に関する見直しの議論
- 3月1日 2018年度認定会議
- ・認定・審査調整委員会委員長から 2018年度の審査の経緯と審査結果を説明

以上

2018 年度基準委員会、基準総合調整委員会経過報告書

2019 年 5 月 29 日

基準委員会委員長 牧野光則

1. 委員構成と会議開催状況

《基準委員会構成》(敬称略)

[委員長] 牧野光則

[委員] 今林慎一郎 小川邦康 小野直樹 梶原正憲 河野浩之
高村岳樹 多田英司 田中友章 玉井哲雄 近森秀高 福地健一
藤吉正明 舞田正志 峯岸邦夫

《基準総合調整委員会構成》(敬称略)

[委員長] 牧野光則

[委員] 基準委員会委員(上記)

山際和明 関東康祐 神保 至 徳永朋祥 垂水浩幸 古関隆章
平松 研 小山裕徳 葛生 伸 辻村泰寛 酒井正博 木下 剛
中山 亨 嶋田弘僧

[事務局] 青島泰之 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子

《会議開催状況》

回	月 日	時 間	場 所	出席委員数
第 56 回基準委員会	2018. 04. 27 (金)	10 : 00-12 : 00	建築会館	12
第 57 回基準委員会	2018. 06. 01 (金)	10 : 00-12 : 00	建築会館	13
第 58 回基準委員会	2018. 07. 17 (火)	10 : 00-11 : 30	建築会館	10
第 59 回基準委員会	2018. 08. 30 (木)	13 : 00-15 : 25	建築会館	10
第 60 回基準委員会	2018. 09. 21 (金)	10 : 00-12 : 00	建築会館	9
第 61 回基準委員会	2019. 01. 18 (金)	10 : 00-12 : 10	建築会館	9
第 62 回基準委員会	2019. 03. 04 (月)	10 : 00-12 : 10	建築会館	10

2. 活動経過のあらまし

基準委員会は、技術者教育プログラムの認定審査に関わる主に下記(1)～(4)の項目について審議した。2018 年度は主として 2019 年度から適用する改定基準(共通基準のみは 2017 年度に公開済み)及び関連する審査用文書の案を作成し、認定事業委員会に提案したほか、基準、規則等に関する判断・解釈の提示を行った。なお、基準総合調整委員会の会議は実施しなかった。

(1) 認定・審査関連規則の制定と文書整備

2018 年度審査に関する公開文書の整備、研修会資料作成への協力を行った。

(2) 基準、規則等についての解説、判断

認定・審査調整委員会、認定事業委員会、その他からの要請に基づいて、プログラムの審査に関する考え方の統一を図るために基準委員会としての見解をまとめ、必要な場合は文書として公開したほか、基準関係文書へも反映させた。

(3) 認定基準、認定・審査方法等の改定

2019年度から改定する認定基準及びその関連文書案を作成し、認定事業委員会に提案した。主要な文書は「技術者教育認定に関わる基本的枠組」、「個別基準」、「認定基準の解説」、「認定・審査の手順と方法」及び「自己点検書」である。

また、基準等の改定内容に関するプログラム向けの説明会を11月から12月にかけて全国の5会場で実施し、基準委員会から4名の委員が講師として参加して説明及び質疑応答を行った。

(4) 海外認定、JICA 技術支援プロジェクト対応

インドネシアの認定団体（IABEE）設立を支援する JICA 技術支援プロジェクトに協力し、委員長が現地にて審査の実施に関する支援を行った。

以上

2018年度専門職大学院認証評価委員会経過報告書

2019年5月29日

専門職大学院認証評価委員会委員長 阿草清滋

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》（敬称略）

[委員長] 阿草清滋

[副委員長] 笥 捷彦

[委員] 掛下哲郎 川田誠一 小佐古敏荘 黒澤兵夫 古屋 繁 佐々木聡
工藤一彦 川村信一

[事務局] 青島泰之 三田清文 石村和男 園部 薫

《会議開催状況》

回	月 日	時 間	場 所	出席委員数
第 18 回	2018. 06. 15(金)	13:00-14:40	建築会館	7
第 19 回	2018. 12. 11(火)	10:00-12:00	建築会館	8

2. 活動経過のあらまし

(1) 委員会並びに委員、作業スケジュールの決定

2018年6月の第18回認証評価委員会の審議結果に基づき、認証評価委員会、基準専門委員会の委員ならびに評価チーム評価員を確定し、2018年度の認証評価スケジュール等について決定した。

(2) 申請受理と評価員研修会

4月末に情報分野の1専攻から認証評価の申請があり、申請受理の後、6月末に自己評価書を受領した。その後、関連機関の協力を得て今年度の評価チームを編成し、申請専攻の合意を得て評価員を決定し、評価作業に着手した。また7月に評価チーム評価員に対し、評価実務に関する研修会を実施した。

(3) 実地調査と認証評価報告書(案)の作成

申請専攻に対し、9月に追加資料を要求し、10月に追加資料受領し、書面調査の後、11月に書面確認書を作成し送付した。11月に評価チームによる実地調査を行い、評価チーム報告書を作成し、その後、第19回認証評価委員会における審議を踏まえて、認

証評価報告書（案）を作成し、12月に申請専攻へ送付した。1月に申請専攻より意見申立書が提出され、認証評価委員会として意見申立に対する回答を作成し、申請専攻へ送付した。また、認証評価報告書（案）を理事会へ提出した。

(4) 認証評価結果の決定と公表

2019年1月30日の通常理事会において認証評価報告書を決定した。その結果、申請専攻はJABEEの定める情報系専門職大学院基準に適合していると評価された。その後、3月25日に認証評価結果を文部科学大臣へ報告し、JABEEウェブサイト公表した。併せて申請専攻へ結果を通知し、適格認定証を交付した。

以上

2018 年度審査事務連絡会経過報告書

2019 年 5 月 29 日
JABEE 事務局

1. 委員構成と会議開催状況

《委員構成》（敬称略）

- [委員] 老田尚久 川崎さおり 遠藤貴子 櫻井 肇 岡部 進 宇都宮公昭
富田明日香 木下泰三 山梨樹里 佐藤ナミ 永井 宏 中島敬介
花塚賀央 築野俊雄 大野智洋 野秋 毅 山口佳和 黒住圭子
長坂壽俊 島 康文
- [事務局] 鈴木雅行(第 21 回) 三田清文 石井英志 園部 薫 羽豆順子
桑原美奈子 志澤英美

《会議開催状況》

回	月日	時間	場所	出席委員数
第 21 回	2018. 04. 03 (火)	10:00-12:00	建築会館	19
第 22 回	2019. 02. 21 (木)	15:00-17:00	建築会館	13

2. 活動経過概要

認定・審査調整委員会の下部組織として、審査チーム派遣機関と JABEE 事務局が認定審査の実施に関わる情報を共有化するとともに、審査チーム派遣機関の意見、要望、提案を認定・審査調整委員会にフィードバックする目的に沿って活動を実施した。

2018 年度は審査結果の報告、審査スケジュール及び審査チーム編成に関する説明、2019 年度改定基準に関する説明を実施した。さらにウェブ講習と分野が主催する審査講習会の関係の明確化や一斉審査の審査団長選定方法、派遣方法等の見直しに関する提案に関して意見交換を行った。また、審査チーム派遣機関からの問題指摘や改善提案への対応の協議等を行い、必要な事項を後日認定・審査調整委員会、基準委員会及び認定事業委員会にフィードバックした。

以上

2018年度JABEEフェロー認定者

認定番号	氏名	認定番号	氏名
第1号	浅見真年	第21号	丹野文夫
第2号	今西 肇	第22号	戸嶋直樹
第3号	入矢桂史郎	第23号	長尾雅行
第4号	牛島和夫	第24号	中野政身
第5号	大富浩一	第25号	根木茂人
第6号	岡部友三朗	第26号	波田野 彰
第7号	奥津良之	第27号	林 久夫
第8号	笥 捷彦	第28号	古村 崇
第9号	亀村勝美	第29号	本多 敏
第10号	工藤一彦	第30号	松野基次
第11号	小泉淳一	第31号	松本良一
第12号	小島博光	第32号	三浦 弘
第13号	小西博雄	第33号	三木哲也
第14号	朱雀和彦	第34号	守分敦郎
第15号	鈴木雅行	第35号	門河良典
第16号	鈴木裕二	第36号	山口克誠
第17号	副島啓義	第37号	山野井昭雄
第18号	高橋浩一	第38号	横田修一郎
第19号	竹之内博行	第39号	吉永耕二
第20号	田中忠次		

賛助会員名簿

株式会社 I H I

アルプスアルパイン株式会社

N T C コンサルタンツ株式会社

花王株式会社

鹿島建設株式会社

サンスイコンサルタント株式会社

J F E スチール株式会社

清水建設株式会社

住友化学株式会社

全国農村振興技術連盟

大成建設株式会社

株式会社竹中工務店

日本工営株式会社

新日鐵住金株式会社 (2019. 4. 1より日本製鉄株式会社)

日本電気株式会社

パナソニック株式会社

株式会社日立製作所

富士通株式会社

三井化学株式会社

三菱ガス化学株式会社

三菱ケミカル株式会社

一般社団法人日本技術者教育認定機構

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館 4F

電 話 03-5439-5031

F A X 03-5439-5033

E - M a i l office@jabee.org

Web Page <https://jabee.org>